



[左の写真]ウクライナ・トランポリン代表チームとの記念写真

[右の写真]深圳小学教育友好訪問団の 湛 艺峰(チェン リーフェン)深圳小学副校長と 粟市長

ごあいさつ

令和元年 12 月 5 日

朝晩の冷え込みに、冬の訪れを肌で感じる季節となりました。師走に入り、一年を振り返りますと、今年もとても多くの交流や出会いがありました。

春にオープンした「にぎわいの里 のいちカミーノ」では、市民の皆さんが企画・発信するさまざまなイベントを通して、これまではない新たな交流が生まれたと実感しています。10 月には、姉妹都市であるニュージーランド・ギズボーン市から記念式典への招待をいただきました。行く先々での温かい歓迎に心の温まる思いがいたしました。

11 月に入り、市内での国際交流が活発な月となりました。まずは、一週間ほどの日程で、東京で開催されるトランポリン世界選手権大会の事前合宿として、ウクライナ代表チームの受け入れを致しました。練習の合間を縫っての本市トランポリンクラブとの交流会では、世界トップレベルの演技を披露いただき、参加した子どもたちにとっても大きな刺激となったことと思います。今回の世界選手権では、東京五輪への出場権を獲得することはできませんでしたが、今後の大会の成績に期待し、東京五輪の事前合宿として、もう一度野々市でお会いできることを楽しみにしています。

また 11 月 25 日からは、中国深圳小学教育友好訪問団 23 名が本市に来られました。野々市小学校と深圳小学との間で結ばれた友好国際関係は、今年で 35 年目となります。市内の小中学校での歓迎行事やホームステイを通じて、今年も交流の輪を広げることができました。

最終日程の前夜には、35 年の間に、小学生のときに深圳に訪問した方や、以前にホームステイを受け入れされたご家族もお招きし、日中友好晩餐会を開催いたしました。永い期間に渡る交流の深さを振り返りながら、これからの交流にさらに強い絆を確認することができたと思います。

国外との交流は生活習慣や文化、そして言語の違いから身構えてしまいがちです。しかしながら、同じ時間を一緒に過ごし、相手を理解しようとする気持ちがあれば、言葉以上に伝わるものがあるのではないかと思います。

国内交流では、11 月 30 日に、9 回目となる「ふるさと交流会 in 東京」を開催いたしました。関東地方でご活躍されている本市出身の方、また、その方から紹介があった方、さまざまなご縁で 111 名のご参加をいただきました。遠く離れたふるさと野々市への想いに、こちらも深く感じ入りました。ご参加いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

ちょっとした「きっかけ」や偶然の「ご縁」が物事の始まりです。さまざまな交流も、その「きっかけ」や「ご縁」の種を大事に育てた結果が、芽となり、花となって続いていくものだと思います。「継続は力なり」と言えば、月並みな言葉になってしまいますが、あらためて、その言葉の大切さに気づかされました。

これから、さらに寒い日が続きます。寒々とした冬空の雲を見るたびに、今冬の積雪量も大変気になるところです。少しばかり早いですが、皆さん、どうぞ良いお年をお迎えください。